

明日へ、**着実な一歩を!**

初心

2005年10月号

平成17年10月発行
年2回刊
題字/福田富一書

〈発行所〉
福田富一
暮しと政治研究所
〒321-0102
宇都宮市江曾島町98番地
TEL 028 (645) 5100
fukuda21@agate.plala.or.jp

栃木の「暁」に向かつて

栃木県知事 福田富一

お陰さまで、間もなく知事就任10ヶ月となる。県内外多くの皆様、長い間支えて下さった後援会の方々に、心からなる感謝と御礼を申し上げます。

昨年の10月15日は、宇都宮市長最後の日であった。多くの関係者に見送られて、涙の別れとなった。

市長2期目1年後であったため、多くの市民の皆様や職員に市政への不安を抱かせることとなってしまったことに、改めてお詫び申し上げます。

平成16年の初秋からこの1年はことのほか重苦しく、暑い日々が続いた。9月6日の市議会一般質問冒頭



答弁に立つ=6月定例会県議会 (東京新聞提供)

での知事選への意欲表明、同15日の後援会拡大役員会での出馬了承の取付け、同21日の政権公約発表と出馬表明、市長辞職願提出、臨時議会での議決を受け、10月15日、辞任による最後の記者会見、夕やみせまる中で涙ながらの職員とのお別れ式、11月11日に知事選告示、同28日の知事選において当選決定、12月9日、23年ぶりに県章を付けて古巣へ初登庁という慌しさであった。



県防災会議=6月県庁

すぐさま、知事として初体験の12月議会と同時進行で新年度の予算編成、人事異動、予算議会、かくして新年度がスタート、6月議会へと進み、さてここで一息夏休みと思いきや、衆議院の解散総選挙となったのだった。

感謝報恩の選挙と捕え、後援会皆様のお骨折れもあって、良い結果を残すことができ、私としては知事選の御恩返しを多少なりとも果たすことができた。

これまでに、中学校における35人学級や、乳幼児医療費助成制度の拡充など「とみかず政権公約」(マニフェスト)も着々と実現、又は方向付けをすることができた。

残る任期3年の間に、県民の皆様との約束を順次果たしていくべく精一杯の努力をして参りますので、今後とも御支援、御協力よろしくお願致します。

この間、地元紙による、3月、9月と2回の支持率調査が行われ、9月には60・7%から66・6%と5・9ポイント支持率が上昇した。

私としては、できることを一歩一歩着実に進めて行く以外にないと考えている。まさに「仕事ぶり」をごらんいただきつつ、結果を实らせることであろうと考えている。

その調査で、乳幼児の医療費助成拡大が高い評価を受け嬉しい次第だが、支持理由の2番目に「人柄」が挙げられ、不支持の第1番目も「人柄」とあり、腑に落ちなかった。

たぶんこれは、少しでも多くの県民皆さんと、直接触れ合う機会を持つべきだとの示唆であろうと考えた。

県政は今、かつてない大きな課題に直面している。地球規模での環境問題▽少子高齢化社会の進展▽高度情報化社会▽経済のグローバル化▽国際化社会にあつて、森林保護や環境負荷の少ない社会の実現▽人間性中心の教育▽ホテル、旅館や建設業などをはじめとする県内経済の再生▽ニートやフリーターなどの若年者対策▽担い手不足や嫁不足を解消する魅力ある農業の実現、▽県財政の再建▽市町村と県との役割分担の見直し▽子育て支援の充実や高齢者の生きがい対策、などなど、いずれも難題山積で、英知を結集しなければならぬものばかりである。

「朝の来ない夜はない」と言う。夜が長すぎるのも困りものだが、栃木の「暁」を一刻も早く迎えるための処方箋を、明らかにしてまいりたいことを心に期している。

手掛かりここに

オール栃木でいこう

国会議員と懇談 (7月11日)



質問に答える知事 (読売新聞提供)

本県関係国会議員と県幹部との懇談会が7月11日、東京都内全国都市会館で開かれた。国会議員からは、地域医療や足利銀行問題などについて「国に対する営業力強化を」「国の言いなりにするのはいけない」など県への注文が相次いだ。国会議員の要望を受け、早朝の朝食会形式から午前11時開会の懇談会では13人の国会議員が出席、途中退席も従来より少なめだった。冒頭、富一知事が地域

医療確保策や地域活性化策など国に対する19項目の要望について説明した。その後、2時間近く行われた意見交換では、県の要望事項に関する国の最新情報を国会議員が報告したほか、県への質問・要望を行った。

地域医療につき、「予算獲得に向け県は国への営業力強化が必要」、足銀受け皿問題につき「県独自のプランを示してほしい」などの意見があり、「県議会と早急に取りまとめたい」と知事はそれに応じた。

知事就任十ヶ月の足跡

宇都宮市の東西を次世代型路面電車(LRT)で結ぶ「新交通システム(LRT)導入課題検討委員会」の初会合が6月23日、宇都宮市内の

ホテルで開かれた。検討委員会は学識経験者や交通事業者、国など24人で組織。LRTの採算性や環境、街づくりといった具体的な課題のほか、本県の車社会を公共交通機関に転換していく意識改革の促し方など専門的な

鬼怒川温泉の景観再生へ

とちぎ元氣フォーラム(5月28日)

知事が県の施策や課題について直接住民と意見を交わす「第一回とちぎ元氣フォーラム」が5月28日、藤原町大原の町総合文化会館で開かれ、地元住民など約百七十人が参加した。この日は会場で参加者から集めたアンケートで関心の高かったテーマを中心に、知事と住民が一問一答形式で話し合う形を取った。同町には足利銀行の一時国有化の

影響が心配されている鬼怒川温泉があり、話題は温泉街再生の問題に集中した。

住民から「景観を良くするため廃業したホテルなどは取り壊して欲しい」「アジアに対して観光宣伝をして欲しい」といった意見や要望が寄せられた。これに対して知事は、「景観再生に関してはどういった仕組みで実現できるのか、という問題の方

よ~し! 温泉へ行こう

インターネットの県の情報発信サイト「とちぎインターネット放送局」で、知事が初出演したコマースィナル(CM)が3月22日から、公開された。CMは、執務室でパソコンに向かう知事、初のPR(3月22日) 疲れた様子の知事がインターネットで見つけた「やすらぎ」と書かれた栃木の地図をクリック。画面に県内の温泉地が表示されたところで、机の引き出しからタオルとおけを取り出し、「よ

インターネットの県の情報発信サイト「とちぎインターネット放送局」で、知事が初出演したコマースィナル(CM)が3月22日から、公開された。CMは、執務室でパソコンに向かう知事、初のPR(3月22日) 疲れた様子の知事がインターネットで見つけた「やすらぎ」と書かれた栃木の地図をクリック。画面に県内の温泉地が表示されたところで、机の引き出しからタオルとおけを取り出し、「よ山帯に属するのである。

し、栃木の温泉だ」とカメラに向かって力強く宣言するという内容だ。日本列島は世界に冠たる温泉の宝庫であり、わが栃木県はその有数の温泉保有地でありながら、全国に向けての宣伝は充分とは言えない。知事のPR作戦が、観光客誘致に大きな効果を挙げることを願わずにはいられない。

なにしろ、日本を縦に走る奥羽山脈は、栃木県を基盤とする、那須火山帯に属するのである。

総合的な視点で議論を

宇都宮・LRT導入(7月11日)

見地から調査検討を進め、来年3月に意見を取りまとめる。会議の冒頭、知事は、高齢者など交通弱者の移動手段の確保や環境、街づくり、雇用の創出、観光振興といったLRT導入の効果を列挙し、「総合的な視点に立った議論が重要。それぞれの立場を超えた活発な議論をお願いする。」と挨拶。



http://www.pref.tochigi.jp/tib/index.html から閲覧可能。

平成17年度実施計画

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
12月17日(出)	11月26日(出)	10月15日(出)	10月13日(休)	9月17日(出)	8月27日(出)	7月10日(日)	6月19日(日)	6月1日(休)	5月28日(出)
小山市	矢板市	岩舟町	国際医療福祉大学	那須町	足利市	益子町	上三川町	宇都宮大学	藤原町
					(実施済)	(実施済)	(実施済)	(実施済)	(実施済)

向付けを今年度中に行いたい。誘客についてはテレビコマースィナルなどを行う」などと答えた。会合は約2時間半に及び、ほかに市町村合併や医療問題なども話し合われた。

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていただきました。

元気な栃木!

現物給付と対象年齢拡大

乳幼児医療費助成問題(8月26日)

知事は8月26日、県内市町村長と政策懇談会を開き、選挙公約の重要な柱の一つであった、乳幼児医療費助成制度の拡充について協議。来年4月から①3歳未満には、医療機関窓口でお金を支払う必要のない「現物給付」②未就学児までを小学3年まで対象年齢を拡大し、診療科目(レセプト)ごとに月五百円を自己負担し、残りの医療費は申請に基づき現行の「償還払い」方式、という案で合意した。乳幼児の医療費は県と市町村が2分の1ずつ負担している。

知事は、この問題を少子化が進むなか、子育て世代の経済的、時間的な負担軽減につながるとして優先順位の高い課題と位置付けている。「今回は第一段階で、県や市町村の財政、小児医療体制などを判断しながら現物給付方式の拡大を考えたい」と語った。

県独自の取り組み強調

全国知事リレー講座(7月5日)



京都で学生を前に公演(読売新聞提供)

全国の知事が地方行政の現状と課題を講義する「第2期全国知事リレー講座」が7月5日、京都市の立命館大学で開かれ、知事が約五百人の学生を前に、「今『栃木』がおもしろい」と題して、農産物のアジア向け輸出や「ニート(NEET)」「対策など県独自の取り組みについて語った。

知事は、県の特徴を「農業県であると同時にモノ作り県」と表現。農業では、イチゴ、かんぴょう、ビール用大麦の生産量が全国一である一方、工業では、歯科用器械、光学レンズなどの製造で全国一であると強調、農業振興面では、イチゴ、ナシなど特産果物を台湾、タイにも試験輸出を行ない、海外市場の可能性を探る意欲を語り、ユニークな事業としてニート対策を国に先がけて実施する方向。足銀問題については、真に県民に役立つ銀行を受け皿にする考えを述べた。

地域への熱意を重視

足利銀行受け皿問題(6月28日)

知事は6月28日の定例会見で、一時国有化中の足利銀行の受け皿候補が県民の利益に合致するかを判断する際のポイントを示した。

「どれだけ地域の金融機関に熱意をもって取り組んでもらえるか」を重視すると語り、受け皿候補の経営方針を吟味することが最も重要との考え方を示した。

受け皿候補の業種・業態への考え方は「特定の金融機関だから、地域金融の機能が発揮できないかもしれない」と示した。

「一概に決めつけることはできない」とした。「金融機関としての健全性、利便性、地域性、機能性を満足し、中小企業の再生にも十分に汗をかいてくれることが担保されれば、メガバンク(の受け皿への出資)を必ずしも否定しない」と述べた。

ただ、メガバンクは「一般論として全国や世界を見据えて事業展開している」ため、「地域の経済事情を十分に考慮してきめ細かく対応してもらえるか不安がある」とした。

日赤本社4人派遣へ

芳賀日赤の内科医不足(9月30日)

知事は8月23日の記者会見で、内科医不足が深刻化している芳賀赤十字病院問題について「日赤本社から診療体制の機能低下を招かないように支援に努める、との回答があった」と明らかにした。

これを受けて日赤本社は9月30日、日赤本社の関連病院から内科医計4人を派遣する見通しがついたことを県保健福祉部に連絡してきた。

同部によると、まず日勤の内科医一人、11月からは常勤医3人が順次派遣される予定。

この問題では、知事は日赤本社を2回にわたって訪問、医師派遣を強く要請していた。

東奔西走の日々

- ◇12月9日 初登庁
「23年ぶりに県章を胸につける。前知事の長所を引き継ぎ、新たな改革と挑戦をしていく。対話と強調、市町村重視、県民中心の県政を行っていくのでよろしく」と挨拶。
- ◇12月16日 東大芦川ダム中止代替案/県と鹿沼市が追加要望尊重で合意。
- ◇1月20日 あしぎんFG株/金融庁などを訪れ「国は株主権利放棄を」と、要望書を手渡す。
- ◇2月8日 小中学校の少人数学級の推進/新年度から中学校全学年の35人学級導入。
- ◇2月9日 東京・大田市場で県産イチゴ、野菜PR。
- ◇2月10日 全国知事会長選の選考に臨む。
- ◇2月23日 児童福祉司5人増員/4月から県内3児童相談所に配置。
- ◇4月4日 LRT導入に支援を/国交相に補助拡充、規制緩和などを要望。
- ◇5月10日 足銀受け皿問題/官房長官に要望書を提出「県民の期待に応える選定を!」。
- ◇5月11日 経済財政諮問会議出席/首相に若年就業支援策(パウチャーモデル事業)を報告。
- ◇5月13日 日赤本社訪問/社長に医師不足の窮状を訴え、医師派遣を要請。
- ◇7月24日 医学生セミナーに参加/「臨床研修ぜひ本県で」と訴える。

知事は8月23日の記者会見で、内科医不足が深刻化している芳賀赤十字病院問題について「日赤本社から診療体制の機能低下を招かないように支援に努める、との回答があった」と明らかにした。

これを受けて日赤本社は9月30日、日赤本社の関連病院から内科医計4人を派遣する見通しがついたことを県保健福祉部に連絡してきた。

同部によると、まず日勤の内科医一人、11月からは常勤医3人が順次派遣される予定。

この問題では、知事は日赤本社を2回にわたって訪問、医師派遣を強く要請していた。

後援会のページ

「初心」創刊に寄せて

福田富一後援会総連合会会長

阿部 英夫



殊のほか暑かった夏を、みなさんお元気に乗り切られましたか、お見舞い申し上げます。さて、その活動活躍を属望し、政治家として着実なあゆみを遂げてこられた富一君を見守り支援してまいりました私たちと

しては、富一君が私たちの郷土、栃木県のリーダーとして新しい一歩を印したことは、まことに同慶に堪えません。富一君の双肩には、二百余万県民の生命と生活、真にゆたかになるべき国土の未来が託されているのです。私たちがしてはより広く確かな視野に立ち、われらが富一君の施政を見つめ、心からのエールを送らなければなりません。さらに、その支援の輪を大きくしてま

雪残る思い出の地

尾瀬沼ハイキング

ハイキングは、昭和58年に福田富一が市会議員に初当選した時の尾瀬沼に始まり今回で20回目。5月29日9年ぶり思い出深い尾瀬沼に向かった。

七入から沼山峠まではマイカー規制で低公害車シャトルバスでの運行となるため、七入駐車場でバスを乗り換えた。沼山峠で下車し、尾瀬沼一周を目指して歩き始めた。今年の尾瀬は雪が多いとの情報はあったものの、予想以上の雪景色に驚いた。雪道は歩きにくく、



遠くを眺める余裕はあまりなかったが、辺りにはミズバショウが咲き始めていて、爽快な風が通り抜け、とても心地良かった。ビジターセンターの情報は「南側半周は上り下りで雪も多いためおすすりできない」との事。予定を変更して沼尻まで行き、昼食をとって戻るといふ北側半周のコースにした。終始雪道に左右されたが、おかげで観光客も少なく、天気にも恵まれ、汚れない美しい自然を満喫した忘れられないハイキングとなった。



※ハイキング愛好会の会員を募集しています。詳しくは事務所へ、お問い合わせ下さい。



喜びも清々しく ゆりの会

平成17年2月20日、第5回ゆりの会新年会は、知事就任と新春を寿ぐ二重の華やぎのうちに約200名のご参加があった。写真はクジ引きで百合の花を射止めた阿部会長と会員の方々。



2,000人参加して 大新年会

富一知事就任後初の新年会を、平成17年2月1日(火)夕景よりホテル東日本「大和の間」に於て、約2,000名の参集を得て開催、国会議員諸先生方、市長村長方、ならびに各種団体長の方々からお祝辞を頂戴した後、知事より種々お礼を言上、つづいて栃木県政の重責を担った決意と今後の抱負を語り、参集ご一同へのご挨拶とした。

「福田家の茶の間」

七月、夫とフー(パグ)の散歩に出かけたのは夜になってのことだ。このところ忙しくて久しぶりだった。



そしてその日以降、フーの体調が悪くなり、散歩に行っていない。初めて仔犬を家に連れてきた時、子供達には「変な顔だからいや!」と言われ、夫には相談していなかったため返事をしてもらえなかった。だが、一晩中外で泣いている仔犬を家の中に入れてくれたのは他

ならぬ夫だった。福田家の「フーちゃん」誕生である。それから十一年、大きな目でいつも私達家族を見守ってくれていた。徐々に具合が悪くなっていったことに気がついてやれず落ち込む私を、「いつかはやってくることなんだ」と慰めてくれる夫。「あやちゃんさんが大人になるまでフーちゃん元気でいるといいね」と言っていた娘も、九月で十九歳になった。仕方がないのかもしれない。今日も皆さんが「フーちゃん元気でですか?」と、声をかけてくれる。

今後のスケジュール

講演会		もちつき大会	
講師	志賀かう子(エッセイスト)	日時	12月4日(日) 午前11時
日時	10月12日(水) 午後6時30分	場所	今宮第一公園
場所	ホテル東日本	日時	2月19日(日) 午前11時
日時	11月28日(月) 午後6時30分	場所	ホテル東日本
場所	アピア		

知事となって初の一振り

もちつき大会

もちつき大会は昭和59年に始まって以来、毎年12月第一日曜日に今宮公園で開催される。今回は12月5日。

前日から地元日光地区後援会役員の方々が手際よくたくさん材料の準備にお骨折りくださった。

今回は富一知事誕生後、初のもちつき大会のため過去最高の人出となった。会場に響くめでたい杵の音と共に、大盛況裏に一年を締めくくる



編集後記

富一知事が県議選を目指していた

平成元年に、最初の「初心」を発刊、しかし諸般の事情で休刊となっていた。昨秋富一知事が誕生したのを節目として再刊を計画しながら、このたび漸く実現のはこびとなった。

今後2回、後援会みな様に「初心」をお届けして、知事の県政への取り組みをご理解いただくとともに、忌憚ないお声をお聞かせいただきたく、お願いいたします。

喜江子夫人、所長志賀かう子、秘書多田寛、事務全般を佐藤有美のスタッフで事務所を運営、どうぞお気軽にお出かけください。お待ち申し上げます。

◆福田富一後援会事務所

宇都宮市江曾島町98番地
電話 028(645) 5100
FAX 028(645) 1124